

つ・む・ぐ

文學評論家 涌田佑氏

わべた・ゆづ 1928

を事典の形で表現すること

は海老名事典も予定する。

「リニア中央新幹線」や
「相模湖」など、相模原市
に関するあらゆる言葉を集

わくた・ゆう
年神奈川県海老名市生ま
れ。県立高校の教員を定年
退職後、80歳近くまで東京
成徳大で講師を務めた。文
筆活動では30歳のころに全
国紙に小説を掲載したこと
もある。

は事典の形で表現すること
は魅力がある。地域の歴史
を残したい」との思いが強
まり、妻・久子の出身地で
自身も約40年間住む相模原
を題材にすることに決め
た。

事典作成の背景には太平
洋戦争の経験がある。19
45年の終戦時、涌田は16
歳。「士官学校に入り、亡
くなつた友人もたくさんい
る」。同世代の死を目の当

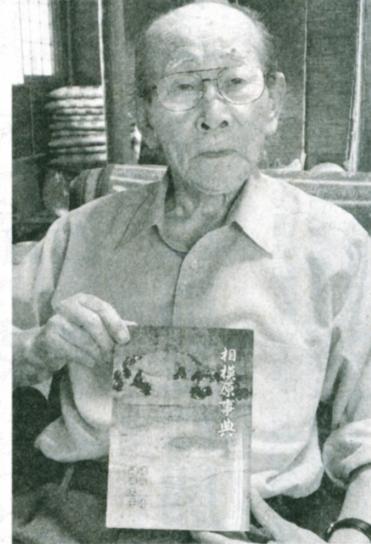
めた「相模原事典」が今年3月に発売された。制作したのは同市在住の文学評論家、涌田佑(89)。約20年かけて歴史や自然、人物な

どについて約1300項目にまとめた。背景にあるのは太平洋戦争の経験だ。「地域の歴史を後世に残すのは生き残った者のすべきこと」と活動を続ける。

相模原事典は国語辞典の
ように「あ」から「ん」ま
で順番に相模原市にまつわ
る単語を掲載した。例えば
「お」から始まる言葉では、
相模原市出身の政治家で憲

相模原に関する言葉 事典に

歴史・自然・人物 後世に



みあざり、世に歴史書などから相模原市に関する言葉を探し出し、その執筆を開背景などを調べる。「取材の基本は現場」との信念から、全項目のうち半分以上は実際に足を運んで事実を確認した。住民や郷土史家に話を聞くだけではなく、

「生き残った人間が何を
しないわけにはいかない。
亡くなつた人のためにも地
域に貢献していきたい」と
話す。

ある人物の命日を確認する
ために墓地まで行ったり、
海外に取材に出かけたりし
て勤務する傍 評伝や自らの
「すばる」や た。

「生き残った人のためにも地域に貢献していきたい」と話す。すでに後世に歴史を残す大切さを強く感じた。

「相模原を知るにはゆかりの深い鎌倉市や海老名市に「井伏鱒二」といた。

す大切さを強く感じた。
「生き残った人間が何を
しないわけにはいかない。
亡くなつた人のためにも地
域に貢献していきたい」と
話す。

現在は相模原市出身の政
治家や作家の評伝を執筆中
だ。10年先まで連載が決ま
っており、出版したい本を
まだまだある。「仕事が空
気の源。これからも毎日書
き続ける」と生涯現役を貫

したことをきの歴史を調べることも不可原事典の構想欠だ」と、11年には先行して鎌倉事典を出版。今秋に「1つの物事

す大切さを強く感じた。
「生き残った人間が何をするか、
しないわけにはいかない。
亡くなつた人のためにも地域に貢献していきたい」と話す。

現在は相模原市出身の政治家や作家の評伝を執筆中だ。10年先まで連載が決まっており、出版したい本まだまだある。「仕事が気の源。これからも毎日書き続ける」と生涯現役を貫く。

（浦崎唯美子）

|| 敬称略
|| おわい

横浜支局
川崎支局
004445122011727759531

浦崎唯美子
||おわり